

週刊教育資料

2016年2月22日号

No.1377

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION

http://www.kyoiku-shiryō.co.jp

>>> 好評連載

● 校長講話【学校生活の中から講話材料を発掘する】野口晃男/前盛岡大学非常勤講師

● 教育問題法律相談【いじめが原因の可能性がある不登校についての対応上の留意点】三坂彰彦/弁護士

● 教育の危機管理【小中一貫教育の制度化と負担軽減-教職員配置の課題と工夫-】廣瀬裕一/上越教育大学副学長

資料「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」(Q&A(全文))

◎文部科学省

マイオピニオン「東日本大震災から5年を経て」

◎見上一幸/宮城教育大学長

事務新時代「これからの学校事務職員の役割を考える(上)」

◎堀井直樹/滋賀県大津市立上田上小学校事務主事

実践! 校長塾「児童生徒の自立と社会参加を目指す」

◎中尾秀行/広島市立広島特別支援学校校長



中尾秀行

なかお・ひでゆき◎昭和30年生まれ。福岡大学経済学部卒業。昭和54年、広島市立の小学校で通常学級担任を6年間、障害児学級担任を6年間経験。平成3年から広島市教育センター指導主事として障害児教育・教育相談を6年間担当。平成9年から広島市立広島養護学校小学部主事。平成13年から広島県立呉養護学校の教頭、平成16年から同校校長に。平成18年から3年間、広島市教育委員会学校教育特別支援教育室長。平成21年から現任校で校長。

日々、多くの子どもたちが、保護者の深い愛情や教師の熱い思いを背に受けながら、健やかに、そして、逞しく成長している。しかし、その一方で、まことに残念なことに、いじめを苦にした自死や学校事故・事件等の報道も、絶えることがない。中学3年生男子は「友だちのことを護れなかった」という遺書を残して自死した。大好きな友だちが4人の生徒からいじめに遭い、それをかばっているうちに、今度は彼自身がじめの標的にされたという。彼が亡くなった後、元担任は生徒たちに「まわりで見て見ぬふりをするのも、いじめと一緒に」と語りかけた。その言葉に対して亡くなった少年の友人の一人が反発する。「そんなことは分かっている。でも先生たちだって見ていたじゃないか」と。

問わずにはいられない
学校事故・事件の現場から



問わずにはいられない

学校事故・事件の現場から

21の被害者家族

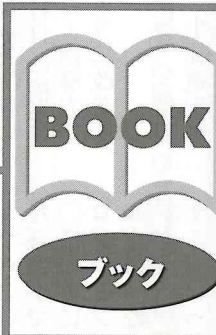
田原圭子

あうん社

21の被害者家族、田原圭子 編
1296円 あうん社
☎0795-70-3232

後、母親が45歳にして授かった子だった。民事裁判、第三者調査委員会の検証、両親は原因究明のための取り組みを今も続けている。「もう無理です」と言う高校剣道部主将の訴えを、顧問は演技だとした。休憩も水分も与えず、さらに激しい稽古を科した。少年は多臓器不全で亡くなった。本書には、最愛のわが子をつた当事者によって、目をそらしたくなるような、しかし、決して目をそらしてはならない21編の事例が書き記されている。本書の冒頭に「この悲しい体験をどう未来につなげていけばいいのか。自分自身に、みなさんに、問わずにはいられないのです」とあった。

必読の1冊だと感じた。
(元川崎市立中学校校長・青木幸夫)



もある。本書は、明治時代から昭和時代まで日本の英語教育を支えてきた人々、とりわけ、著者とのかわりの中で選択された英語教師たちを挙げて、彼らの業績などを当時の英語に対する教育政策や社会的背景、教育内容とともに紹介している。

外山敏雄 著
2268円 大修館書店
☎03-3868-2211



日本の英語教育を彩った人々

外山敏雄

著

大修館書店

☎03-3868-2211

H・ロレンスなどの翻訳者として有名な伊藤整の章では、彼を育てた濱林生之助と小林象三、苦米地英俊など、著者が収集した資料を基にして詳細に書かれている。さらに小林が新設中学への就職が決まった時に伊藤を励ましたことばとして、「どんな簡単な文章でも、よく知っているものは全部辞書を引いて調べ

日本の英語教育を
彩った人々

を紹介している。さらに、1870年頃から1990年頃までの英語教育について、社会的要因と教授法、教科書や指導者による中等教育と高等教育の変遷が描かれている。英語関係者はもとより、日本の言語政策の歴史としても興味深く読める1冊である。
(愛知教育大学教授・高橋美由紀)